

私の幼稚園

—詩と繪と踊り合作の卷—

水嶋 さゆり

園長亡き母の寫真に見入つてゐる。眉を落して古風な小さい丸髻を結つてゐる母の面影をつくづく眺めて涙ぐんでゐる。時雄勝手口から駈込んで來る。

時雄「水嶋さん、これお母さんのお土産だよ。」

ボンボンミキヤラメルミ蜜柑を持つてゐる。

時雄「二人で食べようね。」

園長寫真から眼を離さず、黙つてゐる。

時雄「それ誰？ 水嶋さんのお母さん？、随分お婆さんだね。僕のお母さんまだ若いよ。」

園長「僕の母さんまだ若い。童謡が一行出來たのね、あま附けて御覽なさい。」

時雄「僕の母さん、まだ若い、

大きな丸鬘結つてます。

何でも呉れます、よい母さん、

時々お乳にさはります。」

圓長「アハ………うまい〜。「時々お乳に觸ります。」つて時雄さんのお乳にお母さんが觸るの?。」

時雄「ちがふよ、時雄がね、時々お母さんのお乳に觸るんだよ、誰も居ない時。」

圓長「私も大きくなるまで、よくお母さんのお乳に觸つて見たものだ。も一度お母さんのお乳に觸つて見たいなあ。」

時雄「水嶋さん、それ童謡に作つて。」

圓長「も一度おつぱい飲みたいな。」

母さんねんね言ひたいな、

母さんお墓にいきました。

お墓の石になりました。」

時雄「何だか悲しいや。」

圓長「私も悲しくなつちやつた。さあお母さんのお土産御馳走になりませう。」

時雄「うん、食べよう。」

圓長「ボンボン食べりや、

お腹の中で、太鼓がボン、ボン。

時雄「キャラメル食べりや、

お腹の中で、車がキヤラメル、キヤラメル。

園長「蜜柑を食べりや、

お腹の外でお臍が呼んだよ、ミカーン、ミカーン。

時雄「お臍が呼んだら、

お腹の中で、みんなが言つたよ、キカーン、キカーン。(園長時雄に助力)

二

園長「お母さんから田舎の話聞いたの？」

時雄「聞いたよ、田舎の小母さんミこね、田圃の中の一軒家だつて、そいでね、夜になるミ狐がね、さん、さんミ雨戸を
敲くんだつて。」

園長「狐が雨戸を敲くんだつて？、面白いね。一つ繪に描いて見ないの。」

時雄、鉛筆を執つて、田舎の一軒家を描く、園長空の月を添へる。時雄狐が描けなくて困つた顔する。

園長「その空にいてる處へ童謡を書いたらさう。」

時雄餘白の一隅へ次の様な童謡を書込む。(繪省略)

ほつんき ひこり お月様

ちよこんき ひみつ 一軒家

小鳥もねんね、

にやあにやもねんね、

みんなおねんね、

おもては寒い。

(最後の一句園長の附加)

園長「うまいね、大きい聲で節を付けて読んで見ませう。」

時雄大きな聲で朗讀する。續いて園長歌つて見る。

時雄「水嶋さん、狐描いてよ。それから狐の童謡作つてね。」

園長別な紙に一軒家を描き、狐が雨戸を敲いてゐる圖にする。それに雨を數條引いて、次の童謡を記す。

(繪省略)

こんこん狐

雨夜の晩に、

雨戸をしめりや、

こんこん狐が、

雨戸をたたく、

この戸をあけてミ、

こんこんたたく。

たたくお狐、

おうちは遠い、

うちにやだあれも

待つてない。

雨にや濡れるし、

おなかはすくし、

こんこん狐が、

雨戸をたたく、

この戸をあけてご、

こんこんたたく。

三

「時雄さーん。」

隣の春ちゃん、玉ちゃん姉妹が這入つて来る。

時雄「いらつしやい。水嶋さんここに居るの。」

園長「さあいらつしやい、春ちゃん、玉ちゃん、いい事して遊びましょ。」

春ちゃん「何して遊ぶの。」

玉ちゃん「あたしも入れてね。」

園長「えーえ、みんなでませうね。」

時雄「いろは歌留多しようか。」

園長「ませう。みんなでいろは歌留多を作りませう。」

時雄「犬も歩けば棒に當る。」つて作るの？」

園長「いの字から踊りの唄のやうなのを作るのよ。」

時雄「あ、こりやこりや。」

園長「いの字を作つて見ますよ。」

「い」の字が踊る、

因幡の兎が、ぴよん、ぴよこ、ぴよん、

因幡の國まで、ぴよん、ぴよこ、ぴよん。

時雄「今度は僕、

「ろ」の字が踊る、

櫓拍子揃へて、ぎつこん、こん、

大波乗越せ、ぎつこん、こん。

春ちゃん「あたしわかんないわ。」

時雄「は」の字が踊るつて言ふのさ。」

春ちゃん「は」の字が踊る。」

園長「花咲爺さん、花咲かしよ、

枯木に櫻、おゝ見事、あゝ見事。」

玉ちゃん「わたし何て言ふの。」

時雄「に」の字が踊るつて言ふの。」

玉ちゃん「に」の字が踊る。」

時雄「日本一の黍園子。」

園長「一つ貰つて、あうまい、おうまい。」

時雄「僕、日本一の方がいゝなあ。」

玉ちゃん「日本一はあたしのよ。」

園長「さあ、自分々々のを言つて御覽なさい。」の字から始めますよ。」

園長「い」の字が踊る、

因幡の兎が、ぴよん、ぴよん、ぴよん、

因幡の國まで、ぴよん、ぴよん、ぴよん、

時雄「ろ」の字が踊る、

櫓拍子揃へて、ぎつこん、こん、

大波乗越せ、ぎつこん、こん。

春ちゃん「は」の字が踊る、

花咲爺さん、花咲かしよ、

枯木に櫻、おゝ見事、あゝ見事。」

玉ちゃん「に」の字が踊る、

日本一の黍園子、

一つ貰つて、あうまい、おうまい。

園長掌大の四角な厚紙四枚に、墨で大きく、「い」、「ろ」、「は」、「に」の字を各に書き、絲を附けて銘々の胸に懸けさせる。尙各自に次の様な扮装をさせる。

「い」の字の園長―兎の耳を二つ作つて頭上に鉢巻で止める。

「ろ」の字の時雄―向ふ鉢巻、櫓のつもりで二尺指を持つ。

「は」の字の春ちゃん―頭巾を被つて、ちゃんくを着、笊を持つ。

「に」の字の玉ちゃん―日の丸の扇を持ち、刀のつもりで一尺指を帯に差す。

「×」字が踊る。「は」一回で合唱の事、二の句以下は各一人で歌つて、それぐの仕種を附け、快活に踊る事なき、園長が時雄、春ちゃん、玉ちゃんに一人一人丹念に教授する。

時雄「さあ、いろは歌留多の踊りのはじまり。一、二、三。」

一同「い」の字が踊る。」

園長「因幡の兎が、ぴよん、ぴよこ、ぴよん、

因幡の國まで、ぴよん、ぴよこ、ぴよん。」

兎のこなし宜しく、ぴよん、ぴよこ、ぴよんミ輕快に跳ねて踊る。

一同「ろ」の字が踊る。」

時雄「櫓拍子揃へて、ぎつこん、こん、

大波乗越せ、ぎつこん、こん。」

水夫の仕種巧みに、勇ましく櫓を操つて、ぎつこん、こんミ踊る。

一同「は」の字が踊る。」

春ちゃん「花咲爺さん、花咲かしよ、

枯木に櫻、おゝ見事、あゝ見事。」

にこく顔で、箆から灰を擲み出し、四方の枯木に投げ懸けるこなし有つて、足拍子面白く踊る。

一同「に」の字が踊る。」

玉ちゃん「日本一の黍園子、

一つ貰つて、あゝうまい、おゝうまい。」

桃太郎を氣取つて大威張り、日の丸の扇をさつミ開いて、差したり引いたり、猿・蟹に黍園子を分配するこなしで踊る。

今一度始から繰返して、賑かに且歌ひ、且踊る。

時雄「は」の字が踊る、「へ」の字も踊る。」

園長「し」の字も踊る、「ち」の字も踊る。」

春ちゃん「あたしも踊る。」

玉ちゃん「みんなが踊る。」

おもてをチンドン屋が囃して通る。

一同「ち」の字が踊る、

ちんちん、さんさん、ちんさんさん、

ちんちん、さんさん、ちんさんさん、

（「は」の字以下他日合作の豫定）